GM 鶴牧-3 環の会

第 50 回クラシックを楽しむ会

2017 年 12 月 10 日（日）18:00～（2 時間 18 分、休憩除く）

タイトル：**バレエ「眠れる森の美女」（チャイコフスキー）**

新ボリショイ劇場こけら落とし公演
2011 年 11 月 16 日、20 日（初日）
会場等　：ボリショイ劇場（モスクワ）
楽団等　：ボリショイ劇場管弦楽団
指揮　　：ワシーリー・シナイスキー
改定振付・演出：ユーリー・グリゴローヴィチ
（原振付：マリウス・プティパ）
出演　　：スヴェトラーナ・ザハーロワ（オーロラ姫）
デヴィッド・ホールバーグ（デジレ王子）
アレクセイ・ロパレヴィチ（カラボス）
マリヤ・アラシュ（リラの精）
ニーナ・カプツォーワ（フロリナ王女）
アルチョム・オフチャレンコ（青い鳥）
アンドレイ・シトニコフ（フロレスタン国王）
クリスティーナ・カラショーワ（王妃）
その他

第 1 幕、4 人の求婚者を前に踊るオーロラ姫。この後指を刺して倒れる

あらすじ

オーロラ姫の洗礼式典に招待されなかった邪悪な**妖精カラボス**は、姫が 16 歳の誕生日に死ぬと呪いをかける。しかし、**リラの精**は死の代わりに**オーロラ姫**を 100 年の眠りにつかせる。100 年後、訪れた**デジレ王子**のキスでオーロラ姫は目覚め、めでたく結婚する。

みどころ聴きどころ

プロローグはカラボスとリラの精のテーマが全編を貫くライトモチーフ。第 1 幕の**「花輪のワルツ」**は、くるみ割り人形の「花のワルツ」と並んで有名、ディズニー映画でも歌詞付きで歌われる。オーロラ姫が 4 人の求婚者と踊る**「ばらのアダージョ」**はみどころ。第 2 幕ではリラの精がデジレ王子を真珠貝の船に乗せて 100 年の時空を超えて眠りの森へいざなう幻想的な**「パノラマ」**。第 3 幕は妖精やおとぎ話の主人公たちの楽しいおどり。最後は感動的な大団円**「アポテオーズ」**。

6 年の歳月をかけ大改修したモスクワのボリショイ新劇場

第 51 回クラシックを楽しむ会（予告）

タイトル：**歌劇「アルチーナ」（ヘンデル）**

1 月 14 日（日） 17 時 30 分開場、18 時上映開始

エクサン・プロバンス音楽祭 2015。男を誘惑しては次々に動物に変えてしまう魔力を持つ女アルチーナ。ソプラノのパトリシア・プティボン等、今が旬の歌手たちによる豪華な顔ぶれ。

2 月はお休み、3 月はザルツブルク音楽祭 2017 の「アイーダ」、4 月以降「コジ・ファン・トゥッテ」などを予定。

あらすじ（本公演は全 2 幕にしている）

【主要人物】

オーロラ姫：フロレスタイン国王と王妃の一人娘。名前は暁の女神アウロラに由来。
デジレ王子：”デジレ”(Désiré)は”希望” (Desire)、”待ち望まれる”(longed for)の意味。
リラの精：妖精の中で一番偉い善の精。オーロラ姫とデジレ王子の名付け親。
妖精カラボス：悪の精

【プロローグ】オーロラ姫の洗礼式パーティー（本公演の第 1 幕前半）

オーロラ姫が誕生し、洗礼式のパーティーにリラの精たち 6 人の妖精が招待されてお祝いにくる。喜びにあふれたパーティーの真っただ中、招待されなかった悪の精カラボスが現れ、怒り狂って「オーロラ姫は 16 歳の誕生日に紡錘（つむ）で指を刺して死ぬ」と呪いをかける。しかし、まだ姫に授けものをしていなかった善をつかさどるリラの精が「姫は 100 年の眠りの後、あらわれた王子が口づけすると目を覚ます」と宣言する。バレエ全体を貫く 2 つのライトモチーフ、邪悪な**妖精カラボスのテーマ**と**リラの精のテーマ**が演奏される。入場行進曲に続き、6 人の妖精たちが次々に登場し踊りを披露。終曲は悪の精カラボスとリラの精の応酬。

【第 1 幕】オーロラ姫の 16 歳の誕生日パーティー（本公演の第 1 幕後半）

オーロラ姫の 16 歳の誕生日、賑やかにパーティが開かれ 4 人の求婚者も宮殿にやってくる。糸をつむぐ老婆から紡錘を受け取ったオーロラ姫はくるくる回りながら楽しげに踊っているが、突然ぐったりとして倒れる。紡錘の針が刺さったのだ！老婆がマントを脱ぎ捨ててカラボスが正体を現し、勝ち誇って姿を消す。リラの精は予告した通り死の予言を眠りに変える。そして、オーロラ姫が長い眠りから目覚めた時、全員が目を覚ますよう、王国全体に眠りの魔法をかける。情景に続き村人達が踊る豪華でシンフォニックな美しい**「ガーランド・ワルツ」（花輪のワルツ）**。 次の情景はオーロラ姫が求婚者を前に ”華”を見せる場。続く**グラン・パ・ダクシオン**は 4 人の求婚者とオーロラ姫が絡む有名な**「バラのアダージョ」**。そして劇的な終曲。

【第 2 幕】第 1 幕から 100 年後の森の中（本公演の第 2 幕前半）

100 年が過ぎたころ、森ではデジレ王子たちが狩りをしている。王子が一人になるとリラの精が現れて、オーロラ姫の幻を見せる。王子はオーロラ姫の美しさの虜になり、リラの精にオーロラ姫の元へ連れて行くよう頼む。リラの精は王子を真珠貝の船に乗せ、イバラがからみついている城にたどり着く。眠りの王国はカラボスたちが番をしているがリラの精の前では無力。王子は城の中に入り、眠っているオーロラ姫を発見して接吻する。するとオーロラ姫は目を覚まし、そして城にいた全員が目を覚ます。王子は姫に愛を告白して、結婚を申し込む。間奏曲の後、貴族達の遊戯が組曲風に続く。リラの精のテーマとともにリラの精が登場。オーロラ姫の幻を追いかける王子と避ける姫の切ないパ・ダクシオン。幻想的な情景、**パノラマ**の後、王子が眠り姫の城に到着してから姫に接吻、愛の告白までを、交響的間奏曲と情景・終曲で描く。

【第 3 幕】オーロラ姫とデジレ王子の結婚パーティー（本公演の第 2 幕後半）

婚礼の祝宴には、妖精たち（金の精、銀の精、サファイアの精、ダイヤモンドの精、そしてリラの精とカラボス）だけでなく、おとぎ話の主人公たち（「長靴をはいた猫」や「白猫」）も招かれている。オーロラ姫と王子はめでたく結婚。最後は全員のコーダに続き、ファンファーレが鳴って妖精たちを讃える**アポテオーズ**。人々は妖精たちに感謝し、妖精たちが人々を見守るうちにバレエは幕となる。（本公演はアポテオーズ付き）4 人の妖精のパ・ド・カトル、2 匹の猫のダンス、青い鳥とフロリナ王女のパ・ド・ドゥ、赤ずきんと狼の踊り、シンデレラとフォルチュネ王子のダンス、オーロラ姫と王子の優雅で華やかなグラン・パ・ド・ドゥ。

*1. パ・ダクシオンは情景や筋の運びを表す一連の踊り。パ・ド・カトルは 4 人の、パ・ド・ドゥは 2 人の踊り。

*2. アポテオーズはフランス語で「最高の賞賛」。「眠りの森の美女」の場合、妖精たちへの賞賛と姫と王子の結婚のお祝いの大団円。この中でフランスの王政を讃える「アンリ 4 世賛歌」（アンリ 4 世万歳）が使われているのは、この物語がアンリ 4 世の時代から 100 年後のルイ 14 世の時代に変わったことを意味している（物語はアンリ 4 世時代よりもっと前のフランソワ 1 世時代）。

出演

上ザハーロワ 下ホールバーグ

スヴェトラーナ・ザハーロワ(1979 -)はウクライナ生まれで 175cm。マリインスキー・バレエに入団してプリンシパルに昇進後、ボリショイ・バレエ団に移籍。ボリショイ・バレエを代表するプリマである。なお、ヴァイオリニストの夫ヴァディム・**レーピン**と本公演の年に生まれた娘がいる。

デービッド・ホールバーグ(1982 -)は米国サウス・ダコタ州生まれで 185cm。アメリカン・バレエ・シアターに入団してプリンシパルに昇進。2011 年ボリショイ・バレエ団の芸術監督に就任したセルゲイ・**フィーリン***に招聘され、初の外国人プリンシパルとして本公演にデビューし話題を呼んだ。2014 年に足首のけがで手術したが現役復帰している。

* セルゲイ・フィーリンは新ボリショイ劇場竣工式に大統領を案内し、本公演のゲネプロでは挨拶している。本公演の 1 年余り後、ボリショイの上級ソリストらに強酸を浴びせられ、世界に大きな衝撃を与えた。

マリア・アラシュ(1976 -)はロシア・モスクワ生まれ。本公演の後プリンシパルに昇進。

ニーナ・カプツォーワ(1978 -)はロシア・ロストフ・ナ・ドヌ生まれで本公演の年にプリンシパルに昇進。

アルチョム・オフチャレンコ(1986 -) はウクライナ生まれ。本公演の後プリンシパルに昇進。

アラシュ

カプツォーワ

オフチャレンコ

原作

ペロー

同じような民話をもとに書かれた類話、17 世紀末フランスのシャルル・ペローの「眠れる森の美女」と 19 世紀初頭ドイツのグリム兄弟の「いばら姫」などから台本が「創作」されている。

シャルル・ペローの「眠れる森の美女」

シャルル・ペロー（1628 – 1703）はフランス・パリのブルジョワ階級の家庭に生まれ弁護士になった後、コルベールに認められてルイ 14 世に仕えた。**「ペロー童話集」**で知られ、「眠れる森の美女」以外に、「赤ずきん」、「長靴をはいた猫」、「シンデレラ」などはこのバレエにも登場する。

「眠れる森の美女」はフランス中部の**ユッセ城***で執筆された。この城は「眠れる森の美女」のオーロラ姫が目覚めた城のモデルである。

この原作の物語は、王女は王子のキスで目覚めるのではなく、100 年経ったから自分で目を覚ます。また、二人の結婚の後日談があり、王子の母である王妃は人食いであり、王女と子供を食べようとするなど、このバレエとは多々違いがある。

*ディズニー映画「眠れる森の美女」の舞台は、ドイツ・バイエルン州のノイシュバンシュタイン城がモデルである。

フランス・ユッセ城

グリム兄弟の「いばら姫」

ヤーコプとヴィルヘルムのグリム兄弟は 19 世紀にドイツで活躍した言語学者・文献学者・民話収集家・文学者の兄弟。グリム兄弟が編纂した**「グリム童話」**（子供と家庭の童話）は聖書に並ぶといわれるほど広く読まれ、多くの芸術家に霊感を与え、また、民話収集のモデルとして各国の民話研究にも大きな影響を与えた。

メルヒェン街道にある**ザバブルグ城**には、いばらの垣根があることから「いばら姫」のモデルとされ、古城ホテルとして人気がある。

王女の誕生祝いに招かれなかった妖精が 15 歳で死ぬと予言するが，招かれた妖精たちは呪いを 100 年の眠りに変える。老婆がつむぐ紡錘の針が刺さり、姫は眠りに落ち，城はいばらにおおわれる。 100 年後，王子の接吻で目ざめる。

ドイツ・ザバブルグ城

初演当時の事情

ロシア皇帝のためのバレエ

初演当時（1890 年）の帝政ロシアは**アレクサンドル 3 世**の治世。彼の父親が暗殺され、次の暗殺*を恐れていた皇帝は、舞踏会など社交界を避け、家族だけの生活で、唯一の楽しみは劇場。帝室マリインスキー劇場（帝室劇場）の「眠れる森の美女」初演には、皇族 64 人、宮廷人 300 人を引き連れて鑑賞。まさに皇帝の劇場。

* 暗殺を企てたとして、レーニンの長兄が絞首刑になっている。

アレクサンドル 3 世

当時の国際情勢とバレエ

それまでロシアは文化的、経済的、家系的にもドイツとつながっていたが、プロシャのビスマルクと決裂した結果、同盟国はフランスだけ。皇帝におとぎの国フランスを劇場で見せることになり、当時の軍艦 2 隻分のお金を使って豪華な「眠れる森の美女」を上演した。

バレエの制作

台本はフセヴォロシスキー

バレエ「眠れる森の美女」を発案し台本を書いたのは、帝室劇場総裁フセヴォロシスキー。非常に影響力のある宮廷人で、その地位は大臣級だった。駐フランス大使館に勤務したとき、フランスの絶対王政時代の歴史や文化・芸術に触れて、バレエでは絶対君主ルイ 14 世のヴェルサイユ時代の豪華なフランスを皇帝に見せたいと考えた。

原作の物語から、皇帝の家庭の守り神をイメージして妖精たちを創作するなど、名前を伏せて台本の物語を書き、振付師マリウス・プティパに振付を依頼し、チャイコフスキーに台本を送って作曲を依頼した。そして帝室劇場全体を指揮した。

フセヴォロシスキー

振付はマリウス・プティパ

マリウス・プティパは、フランス人バレエマスター・振付師・台本作家で、帝政ロシアで活躍しクラシック・バレエの基礎を築いた。このバレエの初演時には 72 歳になっていた。

台本の物語から詳細な振り付けを行い、チャイコフスキーに作曲を細かく指示した。例えば、第 1 幕最後のオーロラ姫が指に糸紡ぎの針を刺して倒れる部分は「・・・オーロラ姫は紡錘（つむ）を手にした老婆に見とれる。4 分の 2 拍子で。しだいに 3 拍子のワルツに変わる。少しの休止。姫の苦しみと叫び、手から血が流れる。4 分の 4 拍子で 8 小節。・・・姫は毒蜘蛛タランチュラに噛まれたようにあおむけに倒れる。これは 24 小節から 32 小節で。終わりはトレモロが好ましい・・・」。

プティパ

作曲はチャイコフスキー

チャイコフスキーは、最初のバレエ曲「白鳥の湖」がモスクワで歓迎されなかったため、もうバレエ音楽は書くまいと決めていたが、フセヴォロシスキーの台本に感動して作曲することにした。チャイコフスキーは注文通り見事に作曲しているが、それでも初演時にはプティパの指示で相当な改変をしている。

チャイコフスキー

バレエ制作チーム

3 人は制作の進捗にあわせて度々総裁室に集まった。フセヴォロシスキーは一人ひとりの衣装をスケッチし、舞台背景も美術家に指示して模型を作らせた。そして、これらを 2 人に見せた。チャイコフスキーは順次作曲した曲を演奏して二人に聴かせ、プティパはバレリーナの意見を聞いて、チャイコフスキーにカットや改変を指示した。なお、大団円のアポテオーズに「アンリ 4 世賛歌」を取り入れたのには理由がある。公演の 1 年前、フランス艦隊がペテルブルク港を訪問したとき、ロシアは「マルセイエーズ」を演奏して歓迎したが、このとき、フランスと仲良くしたい皇帝が脱帽し涙を流しているのを、フセヴォロシスキーが見ていたからである。